

事業報告(要旨)

(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

1. 株式会社の現況に関する事項

(1) 事業の経過及び成果

全般的概況

当年度における道内の小売動向は、新型コロナウイルス感染拡大の影響が長引く中で、ワクチン接種の普及を背景に緩やかに回復の兆しが見られたものの、変異株による感染再拡大及び原油価格や原材料価格高騰による生活防衛意識の高まりなどから本格的な回復には至らず、総じて厳しい状況が続きました。

新型コロナウイルス感染拡大に伴う当社の対応では、二度にわたる政府の緊急事態宣言発出により、サンピアザ・デュオ専門店及びカテプリの一部テナントで臨時休業や営業時間短縮、水族館で臨時休館、カルチャースクールで土日休業等の対応を余儀なくされました。

このような情勢の下、当社は業績の立て直しと黒字転換を最優先課題とし、主要事業であるS C事業のほか各事業部門において、「下振れリスクへの耐性力強化」、「大規模投資の圧縮」による経営基盤の維持強化を基本方針として、各種の施策を推進いたしました。

S C事業では、G I 街区開発を踏まえた空区画への新店誘致の実施やS Cリニューアル計画の検討を進めたほか、コロナ禍で自粛していたイベント・販売促進策の再開やSNS・デジタルサイネージを活用した情報発信の強化を行いました。関連事業では、駐車場の機械化・賃貸化を進めるとともに、駐車場業務委託先であった子会社を解散・清算し、事業収支の改善を図りました。またサンピアザ劇場を休館するなどコスト削減・合理化を進めたほか、ホテル事業や他の関連事業で各種売上増加策に取り組みました。開発関連では、G I 街区事業者との間でエリアマネジメント実施に向けた協議を進めました。その他、安心安全対策として中長期の施設維持計画の見直しによる効果的な設備投資計画の策定に取り組みました。

上記の結果、当年度の業績は、一部テナントの売上が回復基調にあったことや前年度に行ったテナントへの賃料減額支援等の反動により、売上高は3,749百万円(対前年度107.6%)と増加し、支出面では売上原価が外部委託費及び修繕費等の減少により3,084百万円(同92.1%)となり、販売費一般管理費が微増の478百万円(同103.0%)となりました。この結果、経常損益は193百万円の利益計上となり、当期純損益においても前年計上の純損失から160百万円の純利益を計上することとなりました。

(2) 財産及び損益の状況の推移

項目 \ 年度	平成 30 年度 第 45 期	令和元年度 第 46 期	令和 2 年度 第 47 期	令和 3 年度 (当期)第 48 期
売上高(百万円)	4,321	4,173	3,483	3,749
経常利益(百万円)	307	134	▲290	193
当期純利益(百万円)	214	69	▲424	160
1株あたり当期純利益	123円23銭	40円03銭	▲243円88銭	92円12銭
総資産額(百万円)	26,681	26,635	26,099	25,961
純資産額(百万円)	12,486	12,556	12,311	12,471
1株あたり純資産額	7,176円39銭	7,216円35銭	7,075円57銭	7,167円62銭

(3) 重要な親会社及び子会社の状況

- ① 重要な親会社の状況
該当事項はありません。
- ② 重要な子会社の状況

会社名	資本金	出資比率	主要な事業内容
アーク開発振興(株)	171百万円	46.6%	ビルメンテナンス受託業務他
(株)アークホテルシステム	20百万円	100.0%	ホテルの管理運営業務

(4) 重要な企業結合等の状況

会社法施行規則第120条に規定する事業の譲渡、他の会社の事業の譲受及び株式その他の持分又は新株予約権の取得、吸収合併又は吸収分割による他法人等の事業に関する権利義務の承継等に該当する事項はありません。

(5) 主要な事業内容

- ① SC事業
札幌副都心開発の一環として建設したSC3棟（サンピアザ、デュオ1、デュオ2）の賃貸・管理・運営
- ② 関連事業
駐車場4ヶ所（サンピアザ、デュオ、北、南）、新札幌バスターミナル、サンピアザ水族館、新さっぽろデュオカルチャースクール、サンピアザ劇場等の管理・運営、その他付随する事業
- ③ ホテル事業
デュオ1ビル内に設置の都市型ホテル（新さっぽろアークシティホテル）の管理・運営
- ④ 土地賃貸事業
高層ホテルビル・オフィスビルに係る土地の賃貸事業

(6) 主要な事業所

名称	所在地	開設日
新さっぽろアークシティ「サンピアザ」SC	札幌市厚別区	昭和52年6月10日
新さっぽろアークシティ「デュオ1」SC	札幌市厚別区	平成2年6月1日
新さっぽろアークシティ「デュオ2」SC	札幌市厚別区	平成4年6月5日
新さっぽろアークシティホテル	札幌市厚別区	平成2年6月6日

2. 会社の株式に関する事項

(1) 株式数

- ① 発行可能株式総数 2,800,000株
- ② 発行済株式の総数 1,740,000株

(2) 株主数 17名

(3) 大株主の状況（発行済株式の総数に対する株式の保有割合の高い上位10名の株主）

株主名	持株数	持株比率
札幌市	600,000株	34.5%
株式会社日本政策投資銀行	340,000株	19.5%
株式会社日本カストディ銀行	160,000株	9.2%
ノースパシフィック株式会社	153,000株	8.8%
株式会社北洋銀行	87,000株	5.0%
株式会社北海道銀行	80,000株	4.6%
株式会社みずほ銀行	80,000株	4.6%
北海道	60,000株	3.4%
共栄火災海上保険株式会社	37,200株	2.1%
損害保険ジャパン株式会社	30,840株	1.8%

3. 会社役員に関する事項

(1) 取締役及び監査役の氏名等（当年度末現在）

地位及び担当	氏名	重要な兼職の状況
代表取締役社長	中塚 宏隆	
専務取締役	井澤 睦雄	(株)アークホテルシステム代表取締役社長
常務取締役	川尻 寿彦	
取締役	西内 敦久	
取締役	佐藤 渉	アーク開発振興(株)代表取締役社長
取締役	石田 裕一	(株)北洋銀行執行役員公務金融部長
取締役	大島 佳之	札幌市都市局長
取締役	疋田 一晶	(株)北海道銀行執行役員札幌・石狩、空知地区営業担当兼営業本部長
取締役	廣田 恭一	札幌商工会議所専務理事
取締役	箕輪 留以	(株)日本政策投資銀行北海道支店長
常勤監査役	井上 徳之	
監査役	秋田 耕児	北海道電力(株)常任監査役
監査役	堤 信之	北海道瓦斯(株)常勤監査役

4. 会計監査人の状況

(1) 会計監査人の名称 E Y新日本有限責任監査法人

(2) 当事業年度中に辞任又は解任された会計監査人に関する事項

該当事項はありません。

5. 業務の適正を確保するための体制及び当該体制の運用状況

(1) 内部統制システムの整備に関する基本方針について

当社は、平成18年6月8日開催の取締役会において、内部統制システムの整備に関する基本方針を決議しております。

(2) 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要

当事業年度における業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要は以下のとおりであります。

① コンプライアンス

当社は、コンプライアンス行動基準および関連諸規程を定め、グループウェアで公開することにより社内に周知するとともに、集合研修による教育を毎年定期的且つ継続的に行うことにより、当社役職員のコンプライアンス意識向上に努めております。

また、コンプライアンス基本規程およびコンプライアンス推進委員会規程に基づき、代表取締役社長を委員長とするコンプライアンス推進委員会を当事業年度において年2回開催し、内部通報および相談状況の把握のほか、各部門のコンプライアンス管理責任者からのコンプライアンス抵触懸念事象の聞き取り、調査分析、再発防止策の協議等を行っております。

さらに、内部通報制度規程に基づき、コンプライアンス推進委員会ラインと社外顧問弁護士ラインの二つの通報・相談体制を運用し、問題の予防および早期発見に努めております。

② 監査役の監査

当社の監査役は、定期的で開催される監査役会ならびに取締役会に出席するとともに、会計監査人との定例的な意見交換を実施しております。常勤監査役においては役員幹部会、部課長会議、コンプライアンス推進委員会等の重要な会議に出席するとともに、代表取締役社長との定例的な意見交換を行い、業務執行の状況を把握することで監査の実効性の確保を図っております。また監査の実効性の向上のため、監査役の職務を補助する人員を3名配置しております。

③ 内部監査

内部監査を担当する総務部において、内部監査規程に基づき内部監査計画を策定し、計画に基づき内部監査を実施いたしました。監査結果は被監査部門に通知され、不適合事項については是正措置が取られております。

以上